

科目ナンバリング									
授業科目名 ＜英訳＞		言語構造論 Language and its Structure				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 藤田 耕司	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	火3		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
（総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）									
【授業の概要・目的】									
現代理論言語学の主要アプローチの1つである生成文法について概説する．生成文法は人間固有の生物学的形質としての言語能力について，その設計・発達・進化の解明を目指す．これまでどのような研究が行われ，何が分かり，何が問題として残っているかについての理解を深める．さらに，近年の生物言語学・進化言語学の発展についても言及し，これらの基本について学ぶ．									
【到達目標】									
生成文法の特に原理・パラメータモデルからミニマリスト・プログラムへの流れについて知見を深めるとともに，言語能力の生物学的基盤や起源・進化についての研究動向を理解する．									
【授業計画と内容】									
以下のトピックについてそれぞれ1～2回の講義を行う．									
1. Language as a biological trait 2. Linguistics as human biology 3. Generative Grammar: From Standard Theory to Minimalism 4. Fundamental properties of human language 5. Syntax and lexicon 6. Modular architecture of the human mind/brain revisited 7. Understanding language evolution 8. The Merge-only hypothesis 9. Motor control origin of Merge 10. Approaching biological/evolutionary adequacy (Biolinguistics 2.0)									
【履修要件】									
「言語科学」など言語学の入門クラスを受講済みであるか，現代言語学の基礎的な知識を持っていることが望ましい．									
【成績評価の方法・観点】									
成績評価は平常点（出席状況や小テスト）30％と定期試験70％に基づく．									
【教科書】									
中村・金子・菊地『生成文法の新展開 ミニマリスト・プログラム』（研究社出版）									
【参考書等】									
（参考書） 講義用資料をKULASISから配布するので各自で持参すること．									
----- 言語構造論(2)へ続く -----									

言語構造論(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書にあらかじめ目を通し，疑問点などを整理した上で講義に参加すること．

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]